

制度検討特別委員会等における検討の経緯等

平成30年12月

○制度検討特別委員会

第1回：平成29年6月6日

- ・今期に残された各課題を確認し、それぞれの検討方針について議論

主な議論テーマ

- (前期から残された課題)
- 技術士資格の国際的通用性
 - 技術士資格の普及拡大・活用促進
 - 継続研鑽 (CPD) の在り方、更新制の導入
 - 技術士補の在り方
 - 第一次試験の適正化
 - 総合技術監理部門の在り方について

第2回：平成29年7月14日

- ・継続研鑽の在り方や更新制の導入、技術士補の在り方について議論

第3回：平成29年10月5日

- ・制度全体としての最終的な目標となるものを1つの軸とし、現在の課題整理で技術士の全体像が見えるかを検討

⇒『技術士資格の国際的通用性』を軸に設定し、今後の検討方針について議論

⇒国際的通用性の面から各課題を整理するため、作業部会の設置を決定

- ・技術士資格の活用について

第4回：平成30年1月24日

- ・国際的通用性検討作業部会の検討経過報告
- ・技術士資格の活用について(ヒアリング調査等の方針について議論)

➤ 資格の活用に係るヒアリング調査(4月～5月)

技術士を活用する企業の人事担当者等、若手の技術士など、計16名に聞き取り調査を実施。

第5回：平成30年6月13日

- ・国際的通用性検討作業部会の検討経過報告
- ・ヒアリング調査結果に基づく議論

第6回：平成30年11月1日

- ・国際的通用性検討作業部会最終報告
- ・今期の技術士分科会、制度検討特別委員会の取りまとめについて

第7回：平成30年11月21日

- ・第9期技術士分科会の検討内容の取りまとめについて
(報告案に関する議論)

○国際的通用性検討作業部会

(設置経緯) 制度検討特別委員会に置いて、国際的通用性の観点から技術士制度の検討を進めるべく、実際の調査議論を行うため、国際的通用性検討作業部会を設置した。(平成29年10月5日第3回制度検討特別委員会)

(目的) 技術士が国際的に社会の中で活躍するためには何が今ネックとなっており、どんな制度が必要なのか、課題を明確にすることを目的としている。実際の各課題(制度)の検討は、作業部会の調査を受け、国内の技術士資格の状況等も踏まえて制度検討特別委員会で議論することとする。

第1回：平成30年1月12日

- ・“国際的通用性”とは(国際的通用性を持つ資格にするための目標)について
- ・技術士制度の国際的通用性に関する課題について議論
- ・今後の議論・調査(海外のエンジニア資格、国内の国際的通用性に対する認識等について)方針の決定

第2回：平成30年3月22日

- ・第1回の議論に対する技術士分科会等から受けた指摘について議論
- ・諸外国のエンジニア制度について議論(技術士会の技術士制度検討委員会の調査)
- ・今後の調査方針、方法についての決定

➤ 国際的通用性に係るヒアリング調査(4月～5月)

APECエンジニアや海外業務を多く行う企業、海外のエンジニア資格(英国CEng、米国PE)保有者等、計22名に聞き取り調査を実施。

第3回：平成30年5月30日

- ・ヒアリング調査に基づき国際的通用性の観点から見た技術士制度の各課題についての検討
- ・作業部会の取りまとめ方針の確認

➤ 各国の資格調査(IEA(International Engineering Alliance)会合(6月末))

日本技術士会技術士制度検討委員会作成の各国の資格比較表をもとに、実際に各国の担当者に各制度に関する調査を実施し、エンジニア資格比較表を作成。

第4回：平成30年8月20日

- ・作業部会の取りまとめとなる国際的通用性検討作業部会検討報告(案)の確認
⇒「国際的通用性検討作業部会検討報告」の決定